

そんないいわけ
青臭いわけ
：ありました。



R18



滑らかな白い肌

誘うしなやかな肢体

染まる目元

紅を差した様に
紅い小さなその唇に

///

触れたい



まるで極上の
甘露のようだ



目眩がしそうな程

甘い



嗚呼
僕は今

この手に
お前を抱いて
いる



鬼灯、僕は
お前の事が

好きだよ

——という
とんでもない夢を
見てしまった。

サ
ー

サ
ー

ななな何だった
んだ今の悪夢は!!!

ずう

妙にリアルだったけど
現実味がまるで無い

だって
そうだろ

あいつが
僕の寝所になんか
来る筈が無いし

もん

もん

ましてや
この僕が

鬼灯のことが
好きだなんて!!

しかも相手はあの
常闇の鬼神だぞ!?

死を
目撃



うん

断じて
あり得ない!!!

嗚呼、でも

あいつの快楽に喘ぐ顔は
結構くるものがある...

アハハ

はっ

アハハ

ハハハハハハ

ハハハハハハ

しかも夢精の
おまけ付き。

うっ!?

この夢は...?

ハッキリ言って
こりや相当重症だ



ふっ...

ハッスルして来た
白狐めだ

ふっ

昨夜は少し
無理をしてしまった
ようですね

鬼灯様—!

フニ
フニ!

シロさん

何だか
フラフラしてる
けど大丈夫?

ええ...
少し捻っただけ
なので

問題
ありませんよ

しまった
見られた

これから俺
桃太郎の所へ
行くんだ

じゃあね—!

桃太郎さんの所に
—!—!—!—!—!—!
白澤さんの...

ホッ...



鬼灯

ちゅー

ちゅー

綺麗

可愛い

お前とずっと
こうなりたかった

僕だけのものになつてよ



好きだよ

他人の温もりが
こんなにも温かったなんて

生まれて初めて
知りました――

鬼灯くん

珍しいね君が
ぼーっとする
なんて

ぼーっとしてる
鬼灯くん

もしかして何か
いい事でもあったの
かい？

！

この私が勤務中に
惚けてしまうとは

そんなものありません！
人の詮索なんかしてないで
さっさと仕事なさい！！

私も
少しばかり
浮かれて
しまっている
ようです

モタモタ
しない！

いたい

理不尽!!

ぐぼー



今日は随分と
ご機嫌ね?

アハッ
そりや勿論...



姐己ちゃん♡

そんな事とは
つゆ知らず



おかしいな
いつもなら
もうとっくに酔い
潰れてる頃なのに

まだ頭の芯が
ズズズ



あの夢がずっと
頭にこびり付いて
離れない

女の子が大好きだ
女の子は柔らかくて
いいニオイだし

可愛いし

それに僕は

断じて

ホモなんか
じゃない

やま。
yamamoto



出来たぞ
媚薬入り薬膳粥

A black and white illustration of a hand dropping a coin into a slot. The hand is shown from the side, with the thumb and index finger holding the coin. The coin is falling into a slot, and there are small circles and lines indicating motion or sound. The background is white with some faint, stylized lines suggesting a slot machine or a similar device.

いつもの如く
絶賛残業中だろう
から

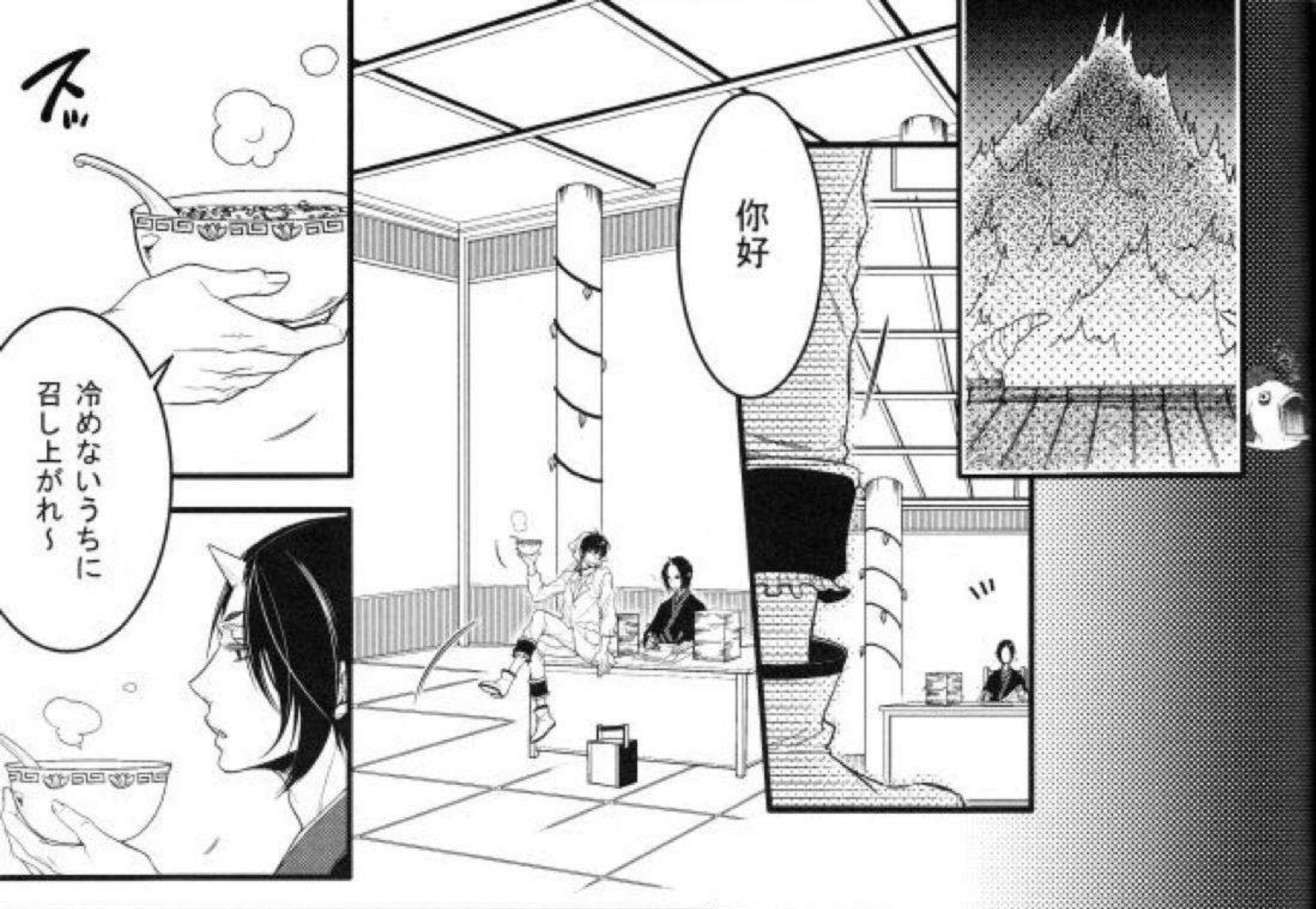
早速こいつを
差し入れに行つて
やろう

鬼め首を洗つて
待つてろよゝゝゝ

ズッコン パッコンの
ぐっちゃぐちゃにして
やるからな〜♡

SUG

※時間差で酒の酔いが
まわって来た為妙な
テンション。





なんだ？

この甘い
空気は

僕は鬼灯に
仕返しをしに
来た筈なのに



—素直に礼を言われて
面食らっただけだろ…？

罪悪感で
胸がズキズキと
痛むのを感じ
ながらも

結局
止めることが
出来なかった

かき
ニ

身体に力が
入らない

全身が痺れて
酷く熱い――

はっ

――これは
一体

どういう状況
でしょうか…？

キッ

あれ

覚えてない？

さっき薬膳粥
食べたでしょ♡

！





感じるのは
性感のみで

お前
鬼用に調合したから
よく効くだろ

濃度
100倍

愛情の欠片は
微塵もない
不毛な行為

因みに副作用は
全然無いからさ

チンチンヤマ

ふーん

ふーん

安心して

思い切り
感じなよ

!?

——息が
酒臭い

こいつ
もしかして

酔っている

!?

——へえ
意外だな

まだ何もしてないのに
すんなり指が2本も
入っちゃうなんて

駄目だ

僕以外の男が先に
お前に触れたなんて

この淫乱鬼

お前

止まらない

男に抱かれ慣れて
んじゃないの？

考えただけで
腹が立つ



ねえ
今まで一体
何人の男に

喘がされて
そんな表情を
晒して来たの

今更こんな形で
己の恋心に
気付いたって

虚しいだけだと
いうのに――

僕はこのふつつと湧き上がる嫉妬心を抑える術を知らない。



私は

貴方に嫌われて
いるとばかり
思っていたから



僕のものに
なつてよ

告白された時は
凄く嬉しくて



柄にもなく
浮かれてしまった



だけど

貴方はそうでは
無かったのですね



薬を盛つて
嫌がらせを
企むほど

私と一夜を共にした事を後悔しているのですか



身体は焼ける様に
熱いのに

心は酷く
凍えていて

ただ
与えられる刺激に
反応しているだけ



悔しい

私はまた

裏切られて
しまうのですか

私はただ

貴方を



好きになった
だけなのに

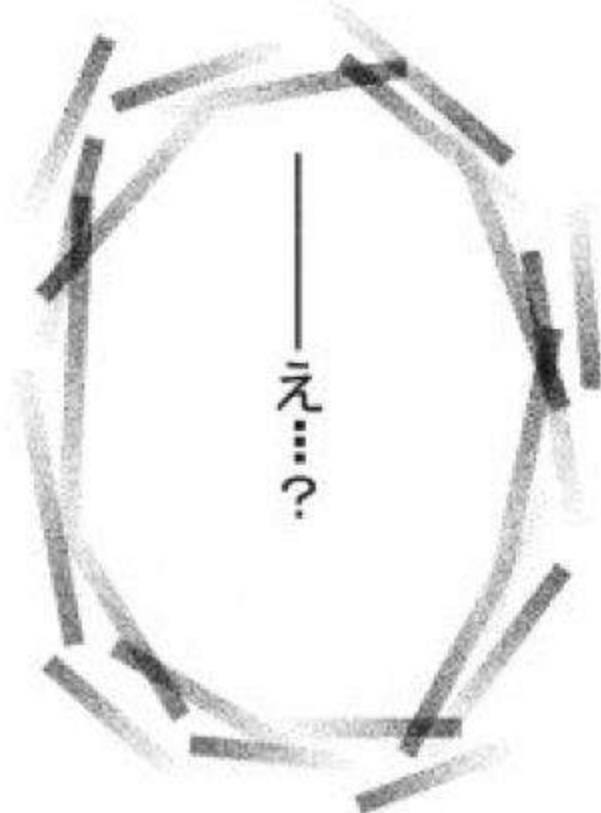
うわ...

—昨夜

貴方の所
天国になど

行くんじや
ありませんでした
...っ





確かに
昨夜って

言った
よな...?

じゃあ

鬼灯とH
しちゃったのって

夢なんかじゃ
なかったって事...?

うん

うん

今

うん

鬼灯

夢なんかじゃ
なかったんだ

もう誤魔化せない
だって僕は
どうしようもない位

お前を

ギ
ィ
ッ

誰にも
渡したくない

夢じゃなかった
のなら改めて

僕だけのものに
なって欲しい



こんな事して
おいて今更なんだ
けど...

その、

ごめん!!

あせろ

昨日はすっごく酔ってたし
お前とHしたのは
てっきり夢だと思ってて

妙にガツカリして
苛々して一人で
ぐるぐると...

ふう

まったく
仕方のない人
ですね

言いたい事くらい
きちんと整理してから
言いなさい





あ…

えっと、

お前に独占されるの
ならそんなに悪くない
…かも



☆ は いい? ☆



この
意地っ張り白豚。
耳をかつぽじって
よく聞け。

こういう大事な
時くらいは素直に

愛していると
おっしゃいな